

令和6年度朝来市図書館協議会

- 1 日 時 令和7年3月18日（火） 15:30～17:00
- 2 場 所 朝来市和田山生涯学習センター 第1研修室
- 3 出席委員 岡田会長・高井委員・川見委員・巻野委員
中島委員・足立委員・谷口委員・平岡委員
欠席委員 森田委員・大友委員
出席職員 垣内副課長・和田課長補佐・谷口上席主査・小山主事
- 4 内 容 (1) 報告 朝来市図書館運営計画の取組みについて
(2) 協議 朝来市図書館アンケートの結果について
- 5 会議の要旨 別紙のとおり

○会長

「(1) 報告 朝来市図書館運営計画の取組みについて」、事務局の説明をお願いします。

○事務局

【図書館運営計画1「図書館は地域の情報拠点」について説明】

○委員

説明の中にはありませんでしたが、複合型施設の検討案作成について、現時点でのイメージはありますか。

○副課長

資料にあるアンケートにもいくつか意見があるように、休憩や飲食ができるスペースが必要だと考えています。和田山図書館は、生涯学習センターの改修に合わせて、そのようなスペースを作成できればと考えております。

あさご森の図書館については、床改修により以前より水に強くなりました。できれば館内のどこかにゆっくりできるスペースがとれればと考えております。

○委員

生野支所の図書スペースが1階と2階になるということでしたが、すみわけはどのようになるのでしょうか。

○副課長

児童書、一般書というようなすみわけはせず、1階は新刊、2階は常設にしようと考えています。子育て学習センターや、学生が勉強できるスペースが2階に入ることから、そのような方に活用していただける本を2階に置こうと考えております。1階は支所の利用者の目につきやすいので、入れ替え制にして、新しい本を置く予定です。

○委員

生野図書室の2階には、靴を脱いであがるようなスペースはありますか。

○副課長

今のところすべて土足の予定です。ただ、マットを敷いて靴を脱ぐスペースを確保することは可能かと思います。

○委員

今の状態は、暗くて近寄りづらいので、それが解消されるとありがたいです。

○委員

貸出券とLINEの連携について詳しく教えてください。

○主事

LINEで朝来市図書館の友達追加していただき、下部のメニューからマイメニューに登録している番号とパスワードを入力いただくと、連携することができます。連携していただいた後に、メニューの貸出券を押していただくと、トークルームに画像で貸出券のバーコードが届きます。

○会長

報告の続きをお願いいたします。

○事務局

【図書館運営計画2「課題解決と生涯学習に図書館を」について説明】

質問なし

○会長

報告の続きをお願いいたします。

○事務局

【図書館運営計画3「図書館で未来を担う人づくり」4「図書館からまちづくりを」について説明】

○委員

学校連携の中の、生野高校の取り組みで生徒による勉強指南がありますが、どのような内容でしょうか。

○上席主査

生徒が、図書館に来館した子供たちへ夏休みの宿題を教えるもので、対象は、小学校低学年です。実際来館された中には中学生もいらっしゃいましたが、高校生が指導を行いました。

(2)協議 朝来市図書館アンケートの結果について

○会長

続きまして、協議事項に移ります。

「(2)協議 朝来市図書館アンケートの結果について」、事務局の説明をお願いします。

○事務局

【朝来市図書館アンケートについて説明】

○委員

電子図書は、福知山市が日本で一番だと新聞で読みました。電子図書については、福知山市にお話を聞かれたらいいと思います。ただ、世間で言われているのは、小説などは、紙の本の方が内容が頭に入りやすいということです。前に一度生野高校の生徒と交流させていただいた時に、生徒たちも電子図書より紙の本の方がいいと言っていました。莫大な費用がかかるので、電子図書の導入よりは、施設の充実にお金を掛けた方がいいと思います。

アンケートの意見にあった、カフェについては、常設だと大変だと思いますので、キッチンカーを土日と呼ぶような方法があると思います。その中で、野外図書のようなイベントがあれば素敵だと思います。

図書館の改修についても、赤穂市のように企業の名前を入れて寄付を募る方法もあります。そのような方法も検討し、改修などを進められたらいいのではないのでしょうか。

○委員

子供が図書館に勉強しに行きますが、飲食をする場所がないので、雨が降ったら午後からしか勉強しに行けません。

また、電子図書についてですが、子供は大体のことはスマホですませています、本だけは紙で読んでいます。

○委員

紙をめくるのは認知症の予防にもいいと聞きました。

飲食スペースについてですが、そのような場所を図書館に作るのではなく、ほかの市の施設を利用して、スペースを確保できればいいのではないのでしょうか。

○委員

アンケートの中で、利用者がサービスを知らない、というお話がありましたが、サービスを知らない

い人がどの年代に多いのかクロス集計を行うと、サービスのPR方法が見えてくると思います。

○委員

電子書籍に関しては、若い方が使う確率が高いと思います。学校との連携も行われていますし、児童生徒が調べ学習に利用できる本を電子図書として導入できればいいのではないのでしょうか。ジャンルを広く持つのではなく、ターゲットを絞って電子図書を導入することはできるのでしょうか。

○副課長

電子図書には、多くの種類がありますが、図書館に電子書籍として導入できるものは限られています。また、すべての紙の本が発行されてすぐに図書館用の電子書籍として提供されるわけではありません。そのため、利用できるコンテンツには限りがあります。すでに導入されている図書館に話を聞きますと、欲しい本がない、ということもよく言われます。

できるだけ公平にみなさんに使用していただけるよう考慮して選書しなければならないと思っております。

○委員

毎年ボランティアで学校の図書室の整理に行きますが、百科事典が本棚を圧迫しているし、内容もどんどん変わっていつてすぐ古くなってしまいます。そこで、図書館と連携して学校の調べ学習で電子図書が使えるようになれば、学校にも良いのではないのでしょうか。

○委員

電子図書は、わざわざ図書館まで返しに行く必要がないので、若い人の利用が増えるかもしないですね。小説などを読むのではなく、料理の本など特定のページを開いて見る本は、電子の方が便利で私もよく利用します。

アンケートにもあるように、現在は若い世代の図書館の利用が少ないので、電子図書の導入により、若い方の利用が増えたらいいと思います。

○副課長

電子図書は文字を大きくも出来ますし、物によっては読み上げも可能なので、紙の本が利用しづらい方にもご利用いただきやすいです。

○委員

学童期の子供たちにもめくるという動作は発達に良いです。電子図書については対象年齢を考慮したらいいと思います。

アンケートについて、図書館を利用された方が対象になっており、50代以上が多い一方、20代以下が少ないので、20代以下の意見が欲しいのであれば、近隣の学校を通じてアンケートの依頼をされたらいいと思います。

SNSでアンケートの依頼や、サービスの宣伝をされたら若い人にも認知が上がるのではと思いました。